



# なのみ通信

令和3年度 筑前町立東小田小学校 学校通信 11月2日 第12号

こんにちは。

なのみ大運動会、林間学校、修学旅行と、10月は大きな行事が続きました。子ども達や職員の頑張りと、皆様の深いご理解により、今年も開催出来たこと、意義深い教育の機会となったことに、大きな喜びと深い感謝の思いを抱いております。

11月もより一層、意義深い季節にしたいと思います。

## ◆ 心に灯るながさき、修学旅行 ◆

10月30日(土)、6年生が長崎への修学旅行から帰ってきました。1日目は原爆資料館、平和公園を訪ね、地元の「さるくガイド」と班

ごとに平和の旅。そして夕刻には100万ドルの夜景を見下ろすホテル矢太楼へ。2日目は寝不足ながらハウステンボスでの班行動。

様々な子どもらしいハプニングもありながら、全員無事に懐かしいふるさと東小田小学校へ戻って参りました。私の中に温かくともる48年前の長崎の旅。子ども達の心の中にも、この旅の思い出が、永遠にともり続けることでしょう。



## ◆ 通学路 その二十三 ◆

心の絆創膏

先日、五年生が林間学校を終え、夜須高原からもどりました。以前より何となく凛々しくなって、いつもの通学路を歩いて来ます。

高学年とは言え、まだ十一歳のちびっ子たち。

家族と離れる寂しさや、朝から晩まで団体行動の不自由さは、ストレスも多かっただろうと思います。

その中で、わがままを我慢し、仲間と助け合い、訓練を乗り越えた彼らの瞳は、依然より輝きを増したように感じます。

「太陽に吠えろ」の刑事のような一、三組の担任はどうでしょう。なるほど、彼らも背筋が伸び、ハードな訓練過程で見た五年生の成長に、これからへの希望を抱いているようです。

林間学校でなくとも、子ども達は毎日、一日の大半において学校生活という集団生活を送っています。そこには、友と出会い、共に学ぶ楽しさ、そして自らの成長の喜びがあります。

一方、集団生活には、友達に関することなどから様々な不安やストレスが生じます。ときには、自分の心にくつも絆創膏を貼り、つらい思いを自分でおっつけてしまうことさえあります。

先日、子ども一人一人と先生との個人面談を設けました。多くの子が学校は楽しいと答えます。でもそんな中に、ふと、「あのね・・・」

と、語り始める子がいます。小さな胸に溜めていたことをどきどきしながらぼつりぼつりと話し始めます。先生はそのそばでうん、うん、と耳を傾けます。

十一月。頑張ってきた二学期、子ども達の心に絆創膏が増えがちな頃でもあります。「先生、あのね・・・」の心の声が聞こえているかな、と自問自答しつつ子ども達の背中を見送る朝です。



### 筑前町英語スピーチコンテスト

6年生の中野楓花さん、眞砂愛さんが本校代表として出場。英語で夏休みの思い出を語りました。すてきでした。